

Nursing Department

看護部





看護部長室

統括看護部長

下田 智恵美

副看護部長

秋澤 恵つ子、金井 歩美、関 夏恵、新井 かおり（医療安全専従）

紹介

看護部長室は、統括看護部長・副看護部長 3 名・看護補助者 1 名が常駐し、スタッフが日々安全に安心して業務にあたれるよう、さまざまな業務調整をしています。

看護部長室・看護管理室 1・看護管理室 2（認定看護師）の 3 部屋からなっており、看護部長室は以前【魔女の館】と言われていたようですが、現在は【天使が舞うお部屋】となっております。統括看護部長の仕事場としてだけでなく、面会や面談などでもできる部屋となっています。看護管理室 1 には副看護部長と看護補助者がおり、教育や業務の運営拠点として、様々な方の出入りがあります。時に統括院長が現れることもあります。また、朝のミーティングの場所として、看護師長のよろず相談所として、休憩室としての機能を持ち合わせています。毎月決まった時期になると、勤務表作成に勤しむ看護師長の姿が多く見受けられます。看護管理室 2 は各認定看護師が活動の拠点としている部屋となっています。

看護部では1年間の活動をまとめた「看護部まとめ」という冊子と1年間の活動計画をまとめた「看護部概要」という冊子を作成しています。その看護部概要には看護の歴史として北信総合病院看護部のあゆみが掲載されています。内容は毎年追加され、昭和20年からの病院の歴史とともに、看護部の歴史も記されています。1990年代後半、病院のベッド数は736床で、県内でもトップレベルのベッド数でしたが、看護師の数は現在より少ない420名前後でした。今から考えると、どのように患者さんを看ていたのかと心配になってしまいます。

国の施策や病院の進むべき道により、ベッド数は減ってきましたが、看護の質を下げるわけにはいきません。少子高齢化の波を止めることはできませんが、地域の医療を守るべく、働く人々を守るべく、北信総合病院看護部長室の奮闘はこれからも続きます。





ICU（集中治療室）

師長

山田 佳織

主任

中村 淑子、檀原 由紀恵

Data

職員数 看護師：23 名

病床数 6 床

病棟紹介

ICU は、北信圏域における急性期を担う重要な部署です。6 床のベッドを備え、常時 2 人の患者さんに対して 1 人以上の看護職員を配置する体制を整えています。

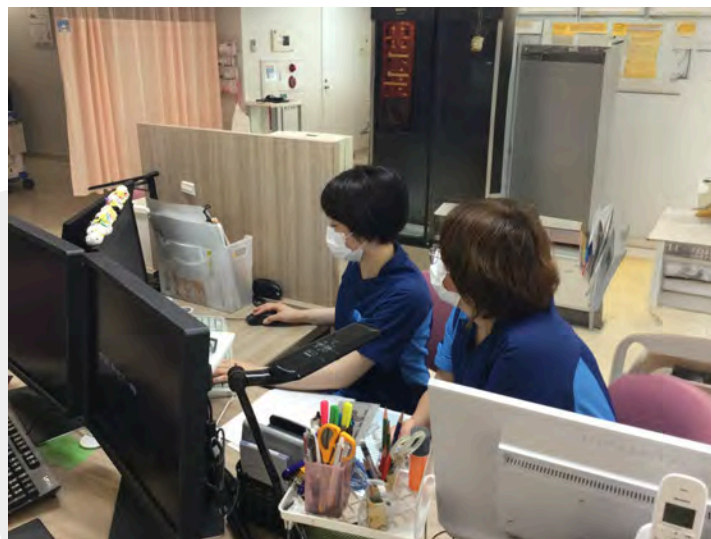


心臓血管外科、脳神経外科など侵襲性の高い術後の患者さんや、呼吸、循環、意識において生命の危機的状況にある患者さんに対し、24 時間体制で集中的なケアと観察を行っています。医師、看護師、臨床工学技士などの他職種が連携し、患者一人ひとりの状態に応じた最適な治療と看護を提供しています。体外式膜型人工肺（ECMO）、大動脈内バルーンポンピング（IABP）、持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）などの高度な医療機器と専門的知識を駆使し重篤な状態からの回復を目指します。

看護職員は、特定行為看護師、認定看護師をはじめ、専門的な知識、技術を備えたスタッフが在籍しています。



ICU に入室する患者さんは緊急のケースが多く、大きな不安を抱えています。私たちがベッドサイドにいる時間や、寄り添う時間を多く持ち、患者さん本人、ご家族の訴えに耳を傾け、限られた治療環境の中で安心して入院生活が送れるよう支援しています。





ER・HCU

師長

大川 智恵子

主任

藤田 啓介

Data

職員数 看護師 30 名、准看護師 1 名、看護補助者 2 名 計 33 名

病床数 HCU14 床、感染病床 4 床、ER 8 ベッド

業務内容

HCU：重症度の高い患者、夜間緊急入院が必要となった患者、感染症に罹患し入院が必要となった患者さんの受け入れを行っております。

ER：平日日中は総合診療科・膠原病内科、内科系緊急搬送患者の受け入れ、夜間休日は救急外来業務を担っています。

岳南広域消防
NAGANO

2024年9月1日にHCU病棟と日中の総合診療科、救急外来が一つのユニットとして再編され、新たな体制がスタートしました。外来から入院までトータルでみることで、救急患者に対する医療、看護の質の向上を目指しています。

この再編に伴い、スタッフの一元化と有機的な人材配置、効率的なマンパワーの活用を図ることが求められ、忙しい時間帯や急変時などには、互いに連携し合える体制を整え、チーム全体で柔軟に対応できるよう努めています。看護師一人一人が、それぞれの役割を理解し、助け合いながら動くことで、現場全体の力が引き出されるよう取り組んでいきたいと思っています。



私たちは常に、「困難な状況の中でも最善さんのケアを提供する」ことを心がけています。従来の枠にとらわれることなく、状況に応じて判断し、行動する力が求められる現場では、迅速な対応力と柔軟性が必要不可欠です。また、患者さんひとり一人の状態や背景に合わせた個別性の高いケアを提供する力も求められます。短い関わりの中でも「今必要なケアは何か」を見極め、思いやりのある態度で実践することが当病棟に求められることであり、看護師のやりがいでもあると思います。

これからも患者さんにとって最善の医療・看護を提供できるように、病棟スタッフだけでなく、他部署とも緊密な連携を図りながら、柔軟で力強い応援態勢を構築し、互いに支え合える職場作りを進めていきたいと思っています。



中央手術室

師長

清水 郁子

主任

青木 かおり

Data

職員数

看護師 28 名、看護補助者 4 名、臨床工学技士 1 名 計 32 名

手術室数

6 室（バイオクリーン・ルーム 1 室、クリーン・ルーム 2 室）

紹介

当院の年間手術件数は 3,463 件で、そのうち緊急手術は 322 件です。周術期において日々、患者さんに安心して手術を受けていただける環境作り、そして安全な医療の提供を目指して業務に取り組んでいます。術前診察は麻酔科医と手術室看護師が共同で行っていますが、そうすることで術前の問題を共有することができ、それぞれの準備を共通の認識の下に進めていくことができます。そして毎朝その日の予定症例をスタッフ全員でカンファレンスを行い、患者様の状態や術式について情報を共有し共通認識を持って手術に臨んでいます。術後に関しては術後疼痛管理チームが産婦人科病棟で開始され、患者さんが少しでも早くおだやかな回復へ向かえるようサポートしています。



当院手術部では昨年部門システムを導入しました。手術室の予約管理、看護計画、看護記録、コスト入力など、手術部門における業務を効率化することで、より専門的な業務に時間を割けるようになり、周術期看護の質の向上につながっていると感じています。また昨年度から夜勤体制を導入したことは、緊急手術により早く対応できるため、患者さんの予後改善や救命率向上につながっています。



医療は一人の患者さんに対し複数の医療専門職が協力して治療にあたるチーム医療で行われます。特に手術部は手術をする外科医、麻酔科医、歯科医（術前の口腔内評価）手術室看護師、臨床工学技士、放射線技師、薬剤師と多くの専門職が関与するチーム医療です。さまざまな専門職がそれぞれの知識と技術を持ち寄り、1つのチームとして患者さんの命と向き合っています。今後もチーム医療に磨きをかけて、地域の皆様に信頼される手術室を作ることを目指し、北信医療圏の中心的役割を果たしていきたいと思っています。





中央材料室

Data

スタッフ数 6名

紹介

中央材料室では昨年大型の減圧沸騰式洗浄機を導入したことで、複雑な形状の器材でも安全かつ効率よく洗浄しています。これにより手術室看護師が直接看護業務に専念できるようになりました。また手術部と中央材料室のスタッフがこまめに連絡を取り合うことにより緊急手術の際も洗浄滅菌により早く対応できています。





西 4 階（循環器センター）

師長

土屋 千恵

主任

梅松 幸栄

Data

職員数 看護師 28 名、介護福祉士 1 名、看護補助者 4 名 計 33 名

病床数 48 床

病棟紹介

西 4 階病棟は循環器センターとして循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、麻酔科、糖尿病内科の5科を有する病棟です。スタッフは看護師 28 名、介護福祉士 1 名、看護補助者 3 名の合計 33 名で 48 床の病床を 24 時間守っています。スタッフの平均年齢は 31 歳と若いスタッフが多く、新人看護師がまずは循環器を学びたいと志す人が多いのがよく反映しているなと感じています。反対に入院患者さんの平均年齢は 76 歳と後期高齢者層であり、高齢化率の高いこの地域をよく表していると思います。習慣病予防活動に取り組んでいます。

入院されている患者さんの状態は、心筋梗塞、心不全などの急性期から慢性虚血性疾患（陳旧性心筋梗塞、狭心症）、慢性腎臓病、さらに透析導入やシャント造設、再建など慢性期までと幅広いです。心臓だけでなく、まさに全身の血管、循環を見ている病棟です。



心臓カテーテル検査やPCI（経皮的冠動脈インターベンション：冠動脈の狭くなった、あるいは詰まったところをカテーテル治療すること）、植え込み型機器（ペースメーカー等）やカテーテルアブレーションなどの不整脈治療の短期入院から、心臓血管外科における大動脈疾患に対する開胸術後、血管内治療後、心臓弁膜症の手術後や、心不全、肺炎などの長期入院の患者さんもいらっしゃるから、予定入院、緊急入院の受け入れと退院で、入退院が激しい病棟ではあります。しかしあらゆる病気から回復していく姿を間近でみることが出来る、やりがいのある仕事だと思っています。また高齢化が進んでいるこの地域だからこそ、入院前と同じ状態で退院後暮らすことができない患者さんも多く、日々入退院支援の大切さを感じています。1日でも早く患者さんご家族が望む場所への退院をサポートするため医師、看護師、コメディカル（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、MSW など）がチーム一丸となって日々の療養を支えています。





西 5 階（脳卒中センター）

師長

滝澤 美佐子

主任

樋口 尚宏、齋藤みゆき（介護）

Data

スタッフ 看護師 26 名、准看護師 1 名、介護福祉士 5 名、看護補助者 4 名 計 36 名
病床数 48 床（重症部屋 3 床 一般床 45 床）

病棟紹介

西 5 階病棟の主な診療科は脳神経内科・脳神経外科です。rtPA 血栓溶解療法、血栓回収療法などをはじめとした脳梗塞急性期治療後の方や、外傷性頭蓋内損傷・神経難病など脳神経疾患を有する患者さんが入院する病棟です。志賀高原・野沢温泉村などの観光地に隣接した地域に位置する病院であることから、冬期間はスキー・スノーボード外傷なども多く受け入れています。急性期だけでなく亜急性期や慢性期の患者さんもあり、入院された患者さん・ご家族が安心して住み慣れた地域に戻れるよう、医師・看護師・リハビリテーションスタッフ・医療ソーシャルワーカーなど多職種によるチーム医療により、患者さんの状態に合わせ多方面からケアしています。

看護師としてご家族の支援状況・社会背景などを早期から情報収集を行い、各科カンファレンスにおいて他職種からの情報が集約されます。そして患者さんの機能回復・残存機能の維持促進のため入院生活場面も訓練と捉えケアの提供を行っていきます。また、脳神経疾患の特徴から意識障害や運動障害などの変化があることから、強いショックを受けたりストレスを抱えることが予測されるため、患者さんのモチベーションの維持と回復への意欲、ご家族の精神的ケアも大切と考えています。



日々の看護実践を振り返り看護の質の維持向上が出来るよう、また介護福祉士が院内では多く在籍することもあり生活視点のケアも大切にする事で、地域の方が安心して入院生活を送って貰える病棟にしていきたいと考えます。







西 6 階（消化器センター）

師長

阿藤 深雪

主任

堀江 昌子

Data

職員数

看護師 28 名、介護福祉士 2 名、看護補助者 4 名 計 34 名

病床数

48 床

病棟紹介

6 科混合の病棟ですが、主は消化器センターです。

内視鏡的検査、治療患者さんから、外科的な手術患者さんを多く抱えています。

科が多い分医師の人数も多いため、連日入退院患者さんの数が多く年間入院件数 1700 件余りで、入院患者数やベッド稼働率は院内でもトップクラスです。

看護師は緊急入院や退院をする患者さんの対応をしながら、入院している患者さんの検査や手術を受ける患者さんの処置や看護にと忙しく動き回っています。

時には業務が重なり、身動きがとれなくなるほど忙しい日もありますが、勤務しているスタッフ同士が声を掛け合い、協力して仕事をしている姿も見られます。看護師の平均年齢が29.5歳と若く、賑やかな職場です。男性看護師も6名所属し、いざという場面で頼りになります。介護福祉士や看護補助者は、患者ケアを中心に仕事をしています。患者さんからの要求があった時だけでなく、スタッフ側からケアの提案や計画を立て実施しています。特に介護福祉士は介護福祉士の日線で患者さんを捉える事ができるため、看護師が気付かない部分の観察にも優れています。看護師が業務に追われている中、介護福祉士や看護補助者ができることを行うなどタスクシェアやシフトもしています。



主要疾患にもありますが、最近は大腸癌から人工肛門を造設する患者さんが増えています。受け持ち看護師が中心となって、その人らしいライフ・スタイルを送ることができるよう、患者さんやご家族指導にも取り組んでいます。

2023年は、忙しさからか接遇について指摘を受けることが多くありました。そこで2024年に職場目標として「接遇改善」を掲げ取り組んだところ、患者さんから感謝の言葉を頂く機会がとても増えました。感謝の言葉を頂くことで、スタッフのやりがいやモチベーションアップにも繋がっています。接遇については今後も継続し取り組んでいきたいです。



2人に1人が「がん」になると言われている時代です。今後もがん患者さんが増えると予想される中、私たち看護師はなにができるのかを考えながら患者さんと関わっていきたいです。また看護師不足も言われています。担い手が増えるよう期待しつつ、今働いているスタッフが100周年を迎えても看護師という職業を続けていける体制作りも必要だと感じています。



西 7 階

師長

井上 透江

主任

原 智子

Data

職員数

看護師 27 名、介護福祉士 1 名、看護補助者 4 名 計 32 名

病床数

46 床

病棟紹介

西 7 階病棟は、整形外科・形成外科・小児科・歯科口腔外科・眼科の混合病棟です。北信圏域の高齢化率は 36.3% と高く、転倒による骨折や、不慮の事故などで受傷することが多いです。骨折による痛みや、床上安静などによる精神的なストレスを軽減できるように患者さんの訴えを聞き、療養しやすい環境を整えながら、看護提供をしています。また、早期から退院支援を受け持ち看護師が中心となり、患者さんご家族の思いを確認して、退院後の生活が困らないようにケースワーカーと連携して退院調整を行っています。2025 年度は、認知症の高齢者が約 700 万人と推計されています。65 歳以上の高齢者は約 5 人に 1 人が認知症になると予想されています。患者さんは「誰かの大切な人」「自分の家族だったら」と考え、あたたかな接遇をしたいと思っています。

また、インバウンドで外国人が多く、昨年も骨折や小児科の入院が多かったです。通訳システムを導入してもらったことで、コミュニケーションツールができましたが、やはり文化や価値観の異なりは感じます。しかし倫理綱領にもあるように、私たちは、平等に看護することに、これからも努めていきます。

自部署の最大の役割として、北信圏域で小児の入院受け入れができる唯一の病院になります。新型コロナウイルスも感染症5類になりましたが、自部署でコロナに罹患した患児の入院受け入れもしています。感染対策を徹底し、患児とご家族ケアをしていきたいと思っています。

最後になりますが、一人ひとりが、自主性を持って現場のスタッフとしてどうしていきたいか、改善点はないかと考え、一人ではできないことも意見を出しあい、嬉しいことや悲しいことなどが共有できる職場で在りたいと思っています。





西 8 階（呼吸器センター）

師長

牧野 由香里

主任



長島 咲子、佐藤 真由美、頓所 園実（介護）

Data

職員数 看護師 29 名、准看護師 1 名、介護福祉士 5 名、看護補助者 3 名 計 38 名
病床数 48 床


病棟紹介

私たち西 8 階呼吸器センターは、呼吸器感染症や気管支喘息、間質性肺炎、肺癌を中心とした悪性腫瘍など呼吸器疾患や腎不全、シャント造設、透析導入など腎臓内科、副鼻腔炎や扁桃腺切除などの耳鼻科の入院病棟になります。看護師 29 名、介護福祉士 4 名、看護補助者 3 名で患者が安心して治療やリハビリを受け、退院後は住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来るように多職種と連携して一人ひとりの患者さん、そのご家族に接することを心がけています。そのひとつとして看護師や多職種による退院前・後訪問を積極的に取り入れています。チーム内カンファレンスで訪問が必要そうな患者さんを検討し、本人・家族同意の下、退院前に試験外出を計画することもあります。そして患者さんのご自宅へ伺い、自宅退院した際に困り事はないか、何か工夫することにより、生活のしやすさが増すのではないかなど退院後の生活を見据えた訪問を行なっています。訪問後は情報を多職種で共有し、必要な情報は外来看護師に情報提供し外来での継続看護に活かせるようにしています。



また、急速な少子高齢化社会を迎えているこの地域では近い将来、医療・看護・介護職の人員不足が課題になります。現在勤務している職員が働き続けられ、かつ働き甲斐が持てる職場環境も大切と考えます。そこで、職員のリフレッシュ休暇（連休）を積極的に導入しています。また、【No 残業デイ】という取り組みをしています。その日の勤務表上の日勤勤務者1～2名に☆印を付けます。予定・緊急入院がある場合、☆印以外の勤務者が協力して担当し、☆印の勤務者は17時の終業を目指します。残業無く退勤出来ることで、その後のプライベート時間を有効利用し、翌日又は次の勤務へのモチベーションアップに繋がるようお互いさま精神で積極的に取り組んでいます。また、今年度は2名の新人看護職員を迎えました。次世代を担う後輩育成も病棟職員全員で力を入れ日々の看護実践の振り返りはもちろん、ともに成長できるよう丁寧な関わりを心がけています。

今後も以上のような取り組みを継続し看護の質の維持向上を心がけ、地域住民や職員から選ばれる病棟作りを目指したいと考えています。





腎・透析センター

師長

関 順子

主任

小池 郁恵

Data

職員数 看護師 12 名、准看護師 1 名、看護補助者 2 名、臨床工学士 11 名
計 26 名

ベッド数 50 床

年間件数 血液透析患者数 164 名 透析回数：25,527 件

腹膜透析患者 2 名

業務内容 月・水・金：昼間・夜間

病棟紹介

腎・透析センターでは、慢性腎不全に対する外来治療を中心に行っております。透析治療においては、血液透析・腹膜透析を行っており、血液透析においては、透析液清浄化に取り組み、オンライン HDF を取り入れています。他院から他科の治療や手術目的で当院へ転院してくる患者さんに対しての治療を行っています。また、帰省や観光でこちらに来ての臨時透析も受け入れています。

看護師、臨床工学技士でペアを組み、シャント管理・下肢末梢動脈疾患重症化予防にも取り組み、受け持ち患者の指導を行なっています。医師・看護師・臨床工学技士・栄養士それぞれの立場からの情報を共有し、患者さん個人に合わせて安全で効率の良い透析治療を提供しています。



透析導入年齢は20歳代から90歳代と幅広い年齢層の患者さんが透析療法を受けています。

患者さんの生活に合わせて、その人らしく透析と共存していくことができるよう多職種と連携し支援しています。患者さんと透析スタッフは長い付き合いになります。穿刺などの技術や知識も重要ですが、指導に対するコミュニケーション技術が大事だと考え、厳しさの中に優しさを持って接しています。





南 4 階

師長

松本 千重

主任

小崎 学

Data

職員数 看護師 22 名、介護福祉士 2 名、看護補助者 2 名 計 26 名
病床数 40 床（保護室 4 床）

病棟紹介

南 4 階病棟は急性期の精神科病棟です。病床数は 40 床稼働であり、保護室は 4 床管理となっています。スタッフ数は 26 名で運営しており、看護体制は 13 対 1 の固定チームナースングを取り入れています。

当院は総合病院であるため身体合併症のある緊急性の高い患者さんの入院対応や、北信地方の精神科病院で無痙攣療法の必要な患者さんの入院も対応しています。また院内でも、身体的な治療が終了し、精神科疾患の治療が必要な場合は、病棟間でのスムーズな転科・転棟を行っています。さらに今年度より東北信の精神科病院の輪番病院の対応も開始となり東北信地方の精神疾患の緊急診察・入院対応も担っています。

2023 年度の入院患者の退院後の生活のデータは、自宅退院 76%、転院 4%、グループホームなどの他施設への入所は 18% です。多くの入院患者さんは退院後在宅で過ごしています。だからこそ入院時より受け持ち看護師が中心となり退院支援が必要となります。患者さん、ご家族の希望に添った退院支援が行えるよう退院支援カンファレンスなどを行っています。



また精神科作業療法士が中心となり、集団または、個々に合わせた作業療法など行い ADL の維持の目的、また退院後の社会生活に向けたリハビリを日替わりで行っています。

私達病棟スタッフは、精神科病棟看護師として日々患者のこころの悩みや、身体的な苦痛の緩和に寄り添いながら今後も継続し、日々の看護を行っています。





南 5 階(医療療養型病棟)

師長

荒井 美奈子

主任

綿貫 恵令、三井 美保（介護）

Data

職員数 看護師 18 名、准看護師 1 名、介護福祉士 7 名、看護補助者 2 名 計 28 名

病床数 38 床

病棟紹介

南 5 階病棟に入院されている患者さんは、急性期から慢性期の経過になった方で、院内転棟されてきた方が多いです。難病の方や、在宅準備、転院、施設入所待機、長期療養、看取りの方が多いのが病棟の特徴となっています。また、レスパイトの方や検査後の方も入院されます。そのため、診療科は多岐に渡っています。人工呼吸器装着されている患者さんも数名おり、モニター管理や吸引、注入食など医療療養を必要とする方が多いです。また、ADL 自立度においても、介助を必要とされる患者さんが多く、日常生活援助を行なっています。月曜日から金曜日まで、機械浴を実施、清潔ケアを計画的に行ない、患者さんの清潔保持に努めています。



スタッフの協力体制があり、チームワークが良いです。新入職員はほとんどいない職場でしたが、今年は新入職員も迎えました。新入職員だけではなく異動された方にも、優しく対応し、協力しながら仕事をしています。看護師と介護福祉士がペアとなり受け持ち患者を担当して、看護・介護を行っています。それぞれの視点を活かして、カンファレンスを行い、看護・介護を提供していきます。患者さんの退院支援に向けた援助として、受け持ちスタッフだけでなく、医師・MSW・入退院支援看護師とカンファレンスを実施し、チームで関わりを持っています。入院患者さんは、コミュニケーションが図りにくい方が多いのですが、患者さんの今後の方向性や、退院の準備などについても、患者さんやご家族の思いを確認し、意志が尊重できるよう関わりを持ち、看護・介護を行っていきたいと考えています。そして、患者さんが安心して入院生活を送り、退院できるように、他部署とも連携を図りながら看護・介護を提供するよう努めていきます。



南 6 階（地域包括ケア病棟）

師長

川野 実智枝

主任

青木 いずみ

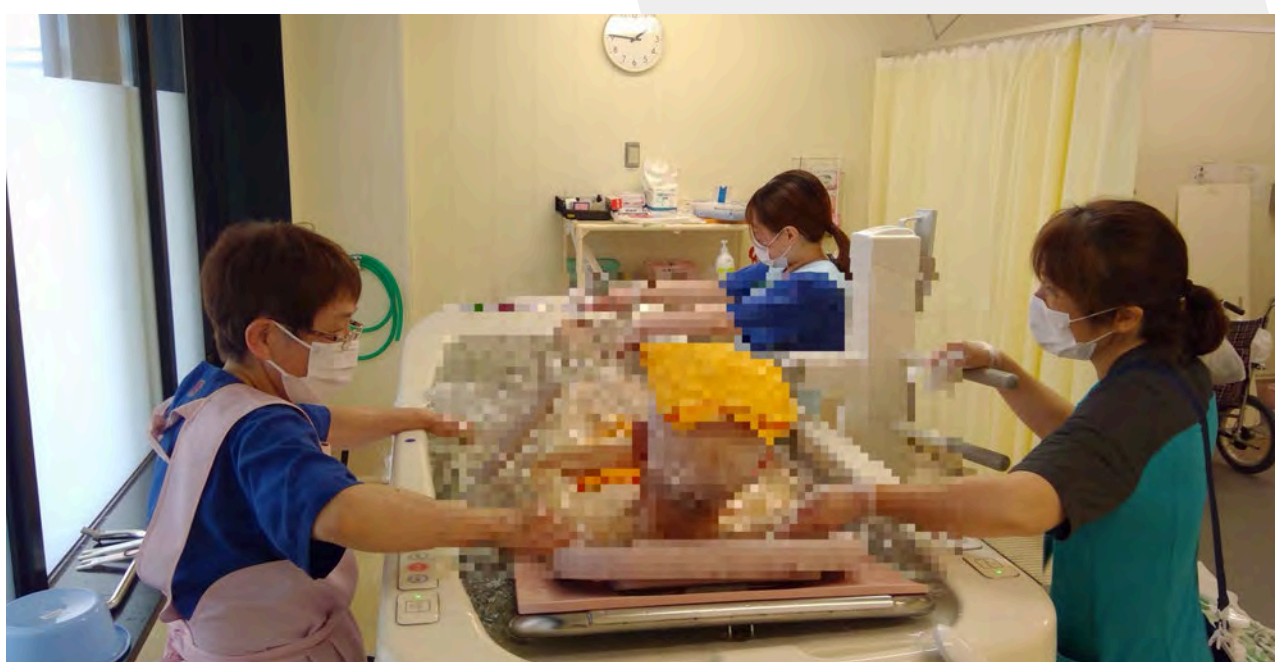
Data

職員数 看護師 29 名、介護福祉士 1 名、看護補助者 4 名 計 34 名
病床数 44 床

病棟紹介

地域包括ケア病棟は、平成 31 年 4 月に開設し今年 7 年目になります。スタッフ数は、看護師 29 名、介護福祉士 1 名、看護補助者 4 名、計 34 名です、在籍年数 5 年以上のスタッフが全体の 25%、ここ数年は他部署から異動してきたスタッフと若手スタッフで約半数を占めています。さまざまな職種のスタッフが配置されていることも強みの部署です。その為、タスクシェアシフトを考慮し、負担の分散と業務効率の向上を図っています。そして、スタッフにとって「働きやすく楽しい職場である」ことを大切にしています。

入院される患者さんは、以前のような退院調整を目的とした場合だけではなく、慢性疾患の急性増悪等の亜急性期から、慢性期、回復期、終末期、レスパイト入院、認知症と、幅広くさまざまな疾患の患者さんを受け入れています。



2024年の診療報酬改定では、他病棟からの転棟患者さん以外に、新規の直接入院も受け入れなければなりません。現在は、独居老人や老老介護のご家庭が増加していることや、入院前の状態に戻らないまま在宅復帰となる患者さんも多く、退院時に難渋するケースも増えています。そのため、早期から地元の医療機関、福祉サービス、訪問看護ステーション、地域ケア会議などの連携を強化し、情報共有やサービスの一体化に取り組んでいます。今後、さらに高齢化社会が進行すると言われています。患者さん一人ひとりが適切なサービスを受けられるよう、入院時から早期支援体制を築くことが重要です。そして、私たち地域包括ケア病棟で働くスタッフが、多岐にわたる疾患に対応できる体制を整え、かつ専門性を高め、継続した質の高い看護を提供していくことが今後の課題です。





南 7 階 (地域周産期母子医療センター)、NICU

師長

吉家 友美

主任

藤巻 瑠美、島田 靖子 (NICU)

Data

職員数 南 7 階 助産師 23 名、看護師 4 名、看護補助者 2 名 計 29 名

NICU 助産師 5 名、看護師 4 名 計 9 名

産婦人科外来 4 名

病床数 南 7 階病棟 28 床、NICU 3 床

年間分娩件数 約 260 件

業務内容

異常妊娠妊婦入院管理 分娩介助 褥婦ケア 新生児管理

帝王切開術後ケア 新生児集中治療管理 (NICU)

助産師妊婦健診 助産師外来 産後健診 (2週間・1か月)

産後ケア (デイ・宿泊・アウトリーチ) 両親学級

産婦人科外来 出生前診断相談外来「さくらんぼ」

婦人科術後ケア 学生指導

子育て理解講座・性教育 子育て支援講座

特色

CLoCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢを認証されたアドバンス助産師がリーダーシップをとり後輩を育成しています。妊産褥婦や新生児に対して良質で安全な助産とケアを提供できる専門的能力を高めるために、継続的な自己啓発を行い実践しています。



助産師妊婦健診



産後ケア



産後健診

抱負

母体・胎児・新生児を総合的に管理して、母と子の健康を守るのが周産期医療です。当センターは、妊娠・分娩期の異常や胎児・新生児の異常に適切に対処するために、産科医と小児科医が協力し、その他の医療スタッフとの連携医療が必要な高度専門医療施設です。

産科・小児科双方から一貫した総合的な体制で周産期の緊急事態に備え、日々努力しております。

緊急の帝王切開や合併妊娠などの高いリスクの妊婦さんの受け入れも行うとともに、松本市内にある総合周産期母子医療センターと連携をとり、相互に情報交換をしつつ地域のお産にあたります。



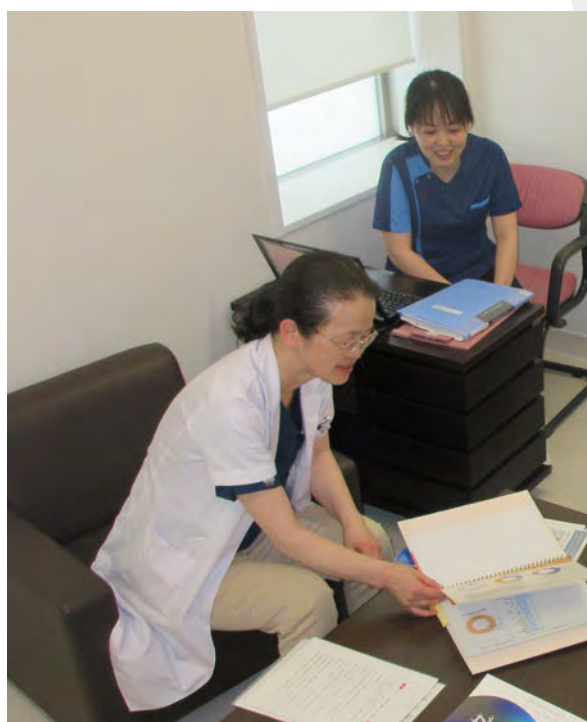
NICU 看護

地域の一般周産期医療機関などからも妊婦さんの受け入れを行っております。北信地域の小・中学校・高校での子育て理解講座・性教育の実施、子育て支援センターでの講座も実施し地域に貢献しております。

少子高齢化に伴い年々分娩件数は減少していますが、特定妊婦や合併妊娠に対応すべく多職種連携を行いながら、妊産褥婦や新生児一人一人と丁寧に向き合い、寄り添える助産ケアを提供し、今後も安心して出産、育児ができる環境作りをしていきます。



性教育



出生前診断相談外来「さくらんぼ外来」





外来（内科外来・脳神経外科外来・内視鏡センター・放射線センター）

師長

宮尾 明美

主任

小林 妙子、宮崎 由美子

Data

職員数 看護師 26 名、准看護師 1 名、看護補助者 5 名 計 32 名

紹介

当院の外来は、検査部門も含め全 27 科の診療科があり、その他専門外来も行っています。今年度 80 周年を迎える中で、以前の外来の体制に興味が出たので、看護部のあゆみを少し辿ってみると、「H19 年に外来管理師長の体制がとられた」と記載がありました。

現在は、外来は師長 2 人体制でそれぞれに各部署を担当し、協力し合いながら外来管理師長としての業務を行っています。

現在、私の担当している部署は、内科外来・脳神経外科外来・放射線センター・内視鏡センターの 4 部署で、出向職員を含め計 38 名のスタッフがいます。それぞれ専門的な知識と技術を必要とする部門であり、経験豊富なスタッフが多くいます。他職種と連携を図りながら、診療の補助、検査介助・医療処置・生活指導等を行い、患者さんが安心して療養生活が送れるに様に関わっています。また、外来間で年々応援体制を確立させながら、横の繋がりも大切に皆で協力し、外来看護業務に取り組んでいます。

今回は 4 部署の中から内視鏡センターと脳卒中相談窓口について紹介いたします。

内視鏡センター

内視鏡室は看護師・内視鏡技師・臨床検査技師・内視鏡カメラ洗浄係の計10名のスタッフがいます。消化器内科、呼吸器内科、外科の医師とともに、年間約10,000件の検査を行っています。最新の内視鏡医療機器と2社の内視鏡カメラを使用しそれぞれの特性を生かし、検査・治療を行っています。内視鏡検査の印象は、不安だし辛いと感じる方が多いと思います。内視鏡室スタッフ一同、患者さんに寄り添い、声がけをしながら、安心して検査・治療を受けていただける様に心がけています。



脳卒中相談窓口（脳神経外科外来）

軽症から重症の脳卒中を発症、または再発を繰り返して、後遺症を抱えて生活しなければならない患者さんは多くいます。在宅での生活で何か困りごとが生じ時に、どこに相談して良いか分からず悩んでしまうことがあります。当院の脳神経外科外来には「脳卒中療養相談士（看護師）」が2名おり、退院後の療養生活での困りごとや悩みごとを聞き、その方に適した情報提供や相談支援をさせていただきます。脳卒中相談窓口への相談は、脳神経外科外来で受付けています。いつでもご相談ください。



外来では、常に相手の立場に立ち、思いやりと心のこもった丁寧な対応をするよう、スタッフひとり一人が意識し、日々心がけています。通院患者さんが、安心して医師の診察を受け、安全・安楽に検査・治療を受けることができるような働きかけを、今後も実践していきたいと思います。



2024 年 12 月稼働 血管撮影装置（アンギオ）と放射線センター看護師
Phillips 社製 / バイプレーン / Aqurion7B20/12



外来

(外科・心臓血管外科・呼吸器外科・整形外科・形成外科・通院治療センター)

小児科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科頭頸部外科・皮膚科・麻酔科・特殊口腔外科・物忘れ外来)

師長

若林 京子

主任 金井 直美、小林 満代

Data

看護師 28 名、准看護師 1 名、看護補助者 1 名、視能訓練士 3 名、歯科衛生士 5 名
計 38 名

紹介

北信総合病院の外来は、様々な診療科があります。

外来師長は2人体制で、私の担当する科を紹介したいと思います。

1F は、外科・心臓血管外科・呼吸器外科・整形外科・形成外科・通院治療センター

2F は、小児科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科頭頸部外科・皮膚科・麻酔科・特殊口腔外科・物忘れ外来があります。38 名のスタッフで、応援態勢をとりながらこれらの科を対応しています。

ちなみに、通院治療センターでは、日常生活を送りながら治療を行っている患者さんに対して抗がん剤治療を行っています。

どの科も診察をお待たせすることも多くご不便をおかけしていますが、外来受診をする地域住民にとって、安心・信頼して受診出来る外来を目指し日々業務を行っています。

今年は病院創立 80 周年となる記念の年ですが、同時に 7 月に北信病院にとって大きな事業となる小児科・皮膚科を診療科とする【北信クリニック】が開院となります。今までの小児科・皮膚科の外来の一部をクリニックに移転し、診察を行います。クリニックにすることで、初診料が不要となり（小児の診察代は地域により異なるが、子育て支援により無償化になっている地域が多い）患者の負担軽減に繋がるメリットもあります。クリニックが少ない地域であり、地域の需要は大きいと思います。開院してしばらくは、受診時の混乱や混雑などが予想され、受診者の皆さまにご不便をおかけすることも多いと思います。より良いクリニック、外来になるよう皆さんの意見を大切にしていきたいと思っています。

Community Medicine Welfare Support Center

地域医療福祉支援センター





地域医療連携課（看護）

師長

小坂 真理

主任

鈴木 麻衣

Data

職員数 看護師 18 名、准看護師 1 名、看護補助者 1 名 計 20 名

業務内容

総合案内

総合案内は、病院の入り口からすぐにあるカウンターが総合案内です。

看護師2名で担当しており、1名ずつ交替で勤務しています。主に、受診相談、検査室や外来へのご案内、病院に対するご意見をお聞きするなどの対応をしています。

患者さんだけでなく、来院された方みなさんに気軽にお声がけいただき、各部署へ「つなぐ」看護を提供できるよう心がけています。



地域医療連携課（看護）

看護師4名で対応しています。かかりつけ医、介護支援専門員との連携窓口の役割を担っており、紹介患者さんの受診対応、他の医療機関との転院調整なども行っています。また、心不全や脳卒中などの地域連携パスも担当しています。地域や医療機関から患者さんを安全に「つなぐ」ことができるように連携しています。患者さんが、住み慣れた地域で「その人らしく生きる」を実現するために、切れ目のない医療と介護の連携が出来るよう顔の見える関係構築に力を入れています。



入院センター

看護師8名 看護補助者1名で対応しています。入院センターは今年で開設10周年となりました。入院センターでは、主に入院病棟へのご案内と、入院予定患者さんに術前説明や入院の説明などを行っています。入院予定患者さんの情報を入院前から把握して問題解決を図り、退院後までの流れをマネジメントしながら入院前支援をしています。

患者さんが安心して入院生活が送れるよう、また安心して退院できるように患者さん、家族に寄り添った看護を提供できるよう心がけています。



退院支援看護師

退院支援看護師は、退院後の生活への不安を感じたり、医療機器の使用や処置のある患者さんやご家族が、安心して退院後の生活を始められるようにお手伝いしています。患者さんやご家族はもちろんのこと、病棟のスタッフ、ケアマネジャーさんや訪問看護師さんなど退院後の生活を支えてくださる方々と一緒に協働しながら、退院にむけてすすめています。現在2名でそれぞれの病棟を担当しています。



がん相談支援センター・緩和ケア

地域がん診療病院として、がん患者さんや、ご家族のがんに関する困り事について、がん専門相談員（看護師 2 名、医療ソーシャルワーカー 1 名）が一緒に考え、安心して治療や療養生活が送れるよう支援しています。がん患者さんやご家族が集い日頃の思いなど語り合える、がんサロン「ふきのとう」や、がんピアサポーター（がんを経験した仲間、その家族）による相談会、がんの治療と仕事についての就労相談会も開催しています。





居宅介護支援事業所

所長

内藤 美麗

業務内容

居宅介護支援事業所は介護保険法が施行された2000年の前年に県の指定を受け、以来中野市を実施地域として要介護認定を受けた方のケアマネジメントを行ってきました。

現在所属する介護支援専門員（ケアマネジャー）は6名で、それぞれ看護師・介護福祉士・社会福祉士の資格を有し、うち4名は主任介護支援専門員の資格を取得しています。

主に地域包括支援センターや地域の病院の MSW から依頼を受け、毎月平均5～6名程度の新規利用者と契約し、昨年度は約2112件の実績がありました。また、要支援者についても地域包括支援センターからの委託を受け、昨年度は265件の実績がありました。



介護支援専門員は要介護（支援）認定を受けた利用者さんが可能な限り居宅においてその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるように介護サービス計画書（ケアプラン）を作成するのが主な業務です。また、介護サービス事業所や保健医療サービス機関等が利用者の状況に応じてサービスを提供できるように多職種連携の中心人物として調整する役割を担います。私たち介護支援専門員は常に利用者の意思及び人権を尊重し、利用者さんの立場に立ち、その方が自分らしい生活を送ることができるように支援することを心がけています。



最近ではご自宅で最期を迎えたいと希望される方も多いため、訪問診療や訪問看護のスタッフと連携しながら、残された時間をその方らしく過ごせるように支援しています。

雨の日も風の日も、暑い日も寒い日も利用者の自宅を訪問し、ともに笑い、時に怒鳴られ、時に一緒に涙を流しながら利用者さんの生活に寄り添うことを心がけていますが、介護支援専門員も人間です。利用者さんやご家族の思いを背負い過ぎて、気持ちがいっぱいいっぱいになってしまうこともあります。そうした時、私たちの事業所ではスタッフ同士気持ちを吐き出し合い、励まし合って、沈んだ気持ちや苛立った気持ちを引きずらないようにしています。自然とお互いを思い合えるチームワークの良さが私たちの事業所の特徴です。

これからの時代ますます高齢者が増え、病院内にある居宅介護支援事業所の介護支援専門員として期待される役割も多くあるかと思いますが、自己研鑽を怠らず、スタッフ一同協力し合いながら真摯に利用者や家族に向き合っていきたいと思っています。



中野市地域包括支援センター北信総合病院

紹介

当センターは中野市からの委託を受けて令和5年4月1日に開設されました。中野市は既に直営型の地域包括支援センターが市役所内に設置されており、互いに連携・協力しながら市民の皆様の相談や支援に携わっております。

高齢者の方に関する相談を中心に、南宮中学校区を担当しています。現在主任介護支援専門員、保健師、社会福祉士の計3名が所属し各々が専門性を発揮して業務を行っていますが、必要に応じ協働して支援に当たることも多くあります。

業務内容

権利擁護

主に虐待、成年後見、消費者被害対応等

包括的・継続的ケアマネジメント

地域ケア会議の開催、関係機関との連携体制づくりや介護支援専門員への個別指導や相談、支援が難しい事例へのサポート等

介護予防ケアマネジメント

介護が必要な状態となることへの予防や要介護状態の悪化予防のための支援で、具体的には以下の方々を対象としています。

- ・ 要支援1、2で、介護予防、総合事業を利用
- ・ 基本チェックリストにおいて事業対象者と認定

総合相談

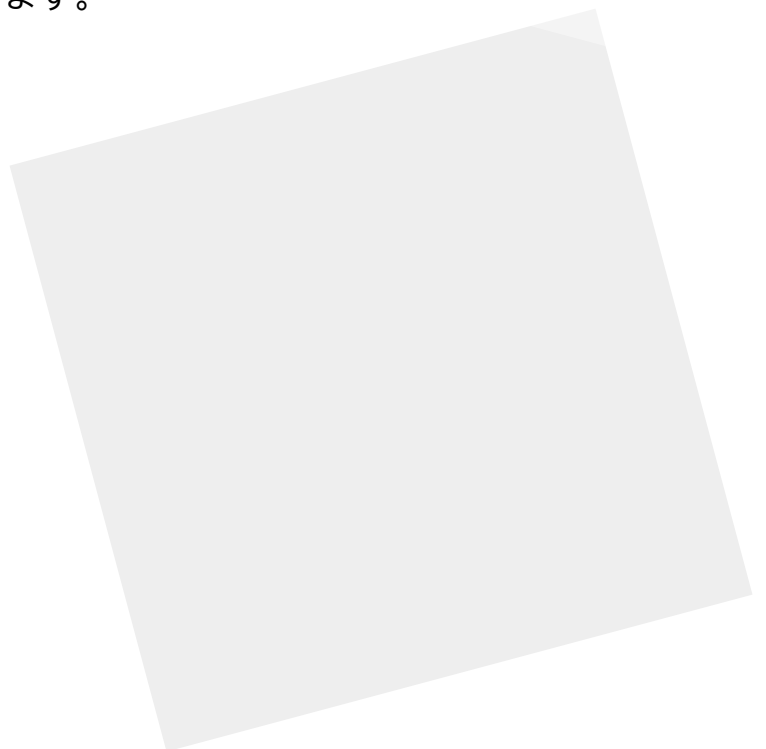
『最初の何でも相談窓口』として幅広い相談に乗っています。
「介護サービスを受けたい」、「こんな相談どこにすればいいんだろう」、「最近、近所に住むおじいちゃんの様子が変だから見てきてほしい」、「おばあちゃんがいなくなっちゃったんだけどどうしよう」、「お金を貸したんだけど返って来ない」... 日々持ち込まれる相談は多岐に渡り、当センターだけでは解決が難しい相談もあります。必要に応じて行政、社協、法律機関、警察、各種サービス事業所、民生委員等様々な方々と連携しながら支援に当たり、地域を繋ぐ橋渡し役も担っています。

また認知症や健康面の相談、健康増進の普及啓発活動（介護予防教室やサロン等）も重要な役割の一つとして位置づけられています。

近年の家族形態の変容、地域の繋がり希薄から、どこにも相談が出来ずにそのまま問題が抱え込まれ、深刻化してから行政や当センターに持ち込まれる相談が増えている印象があります。

8050、社会的孤立、機能不全家族、精神疾患、身寄りなし、生活困窮、虐待... どこか生きづらさを感じながら生活を送らざるを得ない人たちがどれ程多くいらっしゃるか... その人の人生の一端に携わる責任のある仕事です。とは言え、あまり気張らず人間万事塞翁が馬で仲良くやっています。

様々な困難や複雑な事情を抱えつつもその人らしい人生が送れる一助となるべく、これからも一層邁進して参ります。





訪問看護ステーションなかの・きたしなのサテライト

所長

山田 純子

Data

職員数 看護師（なかの：11名 きたしなの：6名）
理学療法士4名、事務2名 計23名

利用者数 なかの：168名 きたしなの：102名（2025年4月現在）

利用保険 介護保険：209名 医療保険：61名 グループホーム：5カ所



業務内容

状態観察、排泄ケア、清潔ケア、内服確認、褥瘡処置、介護相談

終末期看護：緩和ケア、在宅看取り

医療機器の確認（呼吸器・在宅酸素・尿カテーテル・ドレーン類）

地域包括ケアシステムの医療チームの一員として、在宅療養の支援をしています。

・退院後の介護への不安に寄り添い、退院しても継続性のある看護が提供できるように病棟や退院スタッフと連携しています。

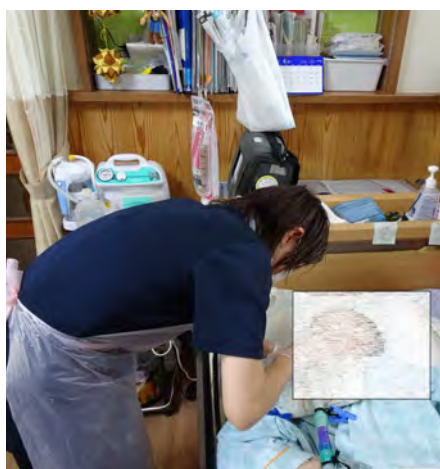
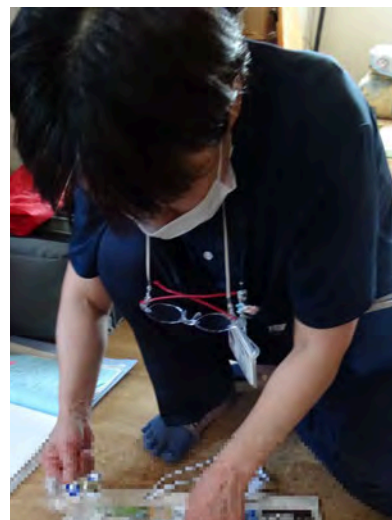
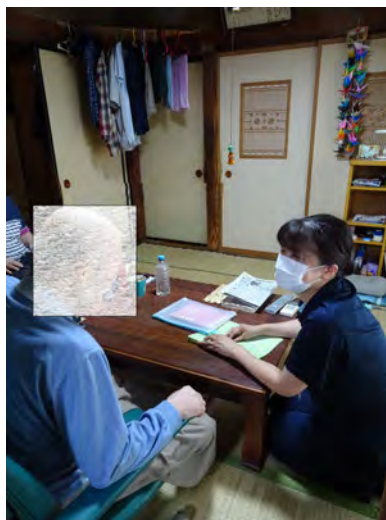
・「住み慣れたご自宅で最期を迎えたい」と希望されているご本人・ご家族を支援し、訪問診療医・開業医と連携し、在宅看取りに取り組んでいます。高齢者や癌末期など状態変化に対応し、苦痛緩和など症状ケアとご家族が不安なく見守れるように相談や介護指導を行っています。

・少子高齢化が進み、一人暮らしや老老介護のご家庭も増えています。病気を抱え体調変化に不安がある方や、医療処置が必要でトラブル時など、ご自宅に看護師が訪問し対応します。ただし治療が必要な場合は受診をお勧めしています。

特性

夜間・休日問わず 24 時間対応ー電話対応・緊急訪問

看護師経験豊富なスタッフ（平均年齢 50 歳）が、安心安全な看護提供に努めています。慢性呼吸器疾患認定看護師が在籍しているため、肺疾患や呼吸機器使用中の看護など専門知識をスタッフ間で共有し統一したケアの実践に取り組んでいます。



抱負

○ケアマネジャーや他のサービス事業所と連携し、患者さんが安定した状態で過ごせるように情報共有し、医療的な助言や介護指導を提供。看取りの状態であっても本人が望む生活が送れるように支援していきます。

○「訪問看護が入ってから、入院することが少なくなった。」「緊急時看護師がすぐ訪問してくれて安心した。」など感謝の言葉が励みになっています。訪問ではその時々判断力も必要になるため、数々の研修会に参加し知識の向上を図り日々の看護に生かしています。在宅でその人らしく過ごす姿が長く続くようにスタッフ全員で支援していきます。

○「在宅時々入院」といわれているように在宅医療の需要が増えています。地域住民を地域の医療で支えていけるように、次世代を担う訪問看護師の育成に今後も取り組んでいます。



訪問看護ステーションせせらぎ

所長

馬場 伸子

Data

職員数 常勤看護師 5 名（管理者兼務 1 名）、非常勤看護師 1 名、事務 1 名 計 8 名

利用者数 利用者数 1,014 人（84.5 人）、訪問回数 4,035 回（336.2 回）

新規利用者は 9 名、施設入所や転居、死亡、本人希望などで終了者は 10 名（2025 年 4 月現在）

業務内容

精神障がい者への訪問看護

服薬管理、日常生活指導・支援等、体調観察（精神的・身体的）、相談・話し相手

実施地域：中野市、飯山市、野沢温泉村、木島平村、山ノ内町、小布施町

当ステーションでは、経験豊富な精神科専門の看護師が在籍し、利用者さん一人ひとりのこころと暮らしに寄り添ったサポートを行っています。スタッフは全員、精神科での勤務経験があり、安心してご利用いただける体制を整えています。

24 時間対応体制では、不安や心配事の電話相談が多く緊急性は少ないですが、話すことで安心感が得られました。関係医療機関、行政、福祉サービス提供者と密接に連携して、安心して生活が送れるような支援に努め、訪問看護に必要な知識・技術を身につけ、利用者さん、ご家族、関係職種の方に信頼されるように、今後も努めて参ります。

主治医からの指示書を基に、利用者さん・ご家族の要望を十分配慮した看護計画をたて、訪問看護施し、利用者さんの生活や思いに寄り添い自主性を尊重し支援を提供しています。



これから 100 周年へ向けて～こころのケアが当たり前の社会

精神科訪問看護は、精神に不調を抱える人々の暮らしを支えるために誕生し、大きな発展を遂げてきました。かつては、入院中心だった精神医療も、地域ケアへの転換が進み、「その人らしい生活」を地域の中で支える訪問看護の役割はますます重要となっています。

創立 100 周年は単なる通過点ではなく、「心のケアが当たり前に受けられる社会」を実現するための新たなスタート地点です。誰もが安心して地域で暮らせるように、精神科訪問看護ステーションせせらぎは、これからも進化し続けます。



Geriatric Health Services Facility

老人保健施設





老人保健施設 もえぎ

施設長

下山 丈人

看護師長 小林 君恵

看護主任 穂刈 綾子

介護主任 小林 美香、桑原 淳一、相馬 明日香、市川 奈美

事務課長 山崎 勝

事務主任 臼井 ゆり

リハ科主任 田尻 勝、医療社会事業科主任 酒井 昌美

Data

職員数 医師 1 名 看護師 15 名 介護福祉士 43 名 看護補助者 9 名
理学療法士 6 名 作業療法士 5 名 言語聴覚士 1 名 支援相談員 2 名
管理栄養士 2 名 事務 5 名

ベッド数 入所 100 床（短期入所も含む） 通所リハビリテーション定員 45 名

紹介、特色

当施設は、介護が必要な高齢者にリハビリテーションなどを提供して在宅復帰を目指し、また、在宅生活の支援も行う施設です。施設サービスとして入所サービスを、居宅サービスとして短期入所、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションのサービスを提供しています。

特色としては、高い在宅復帰率を誇り、在宅復帰、在宅生活支援に力を入れていること、リハビリテーションスタッフを多数配置し、個別リハビリテーションに力を入れていること、介護される・介護する両者にやさしいテクノエイドを取り入れた介護方式を実践していることなどがあげられます。

抱負

老人保健施設は、純粋な医療施設でもなく、純粋な介護施設でもありません。ある時は介護施設として笑顔を見せ、ある時は医療施設として冷静な目をもって対処していきます。

2025年問題、2040年問題、認知症高齢者の増加等、変化する介護情勢の中でも質の高い看護・介護の提供を継続していく事のできるよう、専門的な研修を受けたスタッフを増やし、ご利用いただく方の満足度を維持していきたいと考えております。

2024年度からは利用者さんの肺炎予防、嚥下状態の機能向上を促進するため、歯科医師・歯科衛生士による口腔衛生診に力を入れ、ご利用者さんが食事をおいしく食べ続ける事のできるよう支援しています。

介護・看護技術などを常にアップデートし、これからも在宅支援・在宅復帰のための地域拠点施設として、もえぎをご利用していただける皆さんが、安心して住み慣れた地域で暮らすことができるよう支援して参ります。



多職種でサービス担当者会議



リハビリのワンシーン



経腸栄養剤の準備



もえぎの中枢部 多くの事務処理が行われています



介護福祉士 主任も真剣に事務処理



おいしさと栄養バランスを追求
スペシャル管理栄養士



楽しみにしている食事の時間です



今日のランチはカレー、おいしいよ

季節のイベント



菖蒲湯、気持ちいいー



節分の日イベント



鬼役スタッフも本気でやるから
みな楽しい



短期入所の送迎に向かいます



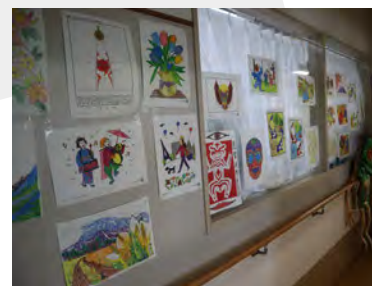
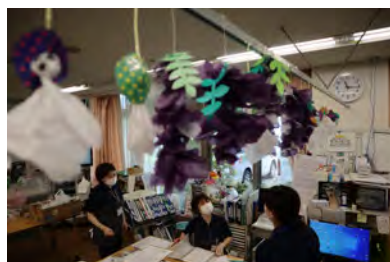
本院のセブンイレブンから出張販売
楽しい買い物のひと時



通所リハビリテーション作品集



2025 年は巳年



Medical Clinic

診療所、クリニック





北信州診療所

所長

曽根 進

主任

樋口 さとみ

Data

職員数 看護師 4 名、事務 2 名 計 6 名

紹介

平成 17 年 4 月飯山市北部に北信総合病院附属北信州診療所が開設されました。
現在 20 年目を迎えています。

自然豊かな環境に囲まれて医師 1 名、看護師 4 名、事務職員 2 名のスタッフで外来業務をしています。

一般内科を中心に、1 日平均 50 名の方が来院され、急性期疾患の初期診療、慢性疾患管理、健康予防活動、通院困難患者さんへの訪問診療を行っています。
毎月、地域医療カンファレンスを行い、訪問看護、各事業所のケアマネ、包括支援センター、通所施設の方と医療、介護から福祉まで連携して支援が行えるようにしています。
地域の小中学校の予防接種も行っています。

飯山市北部には、内科の診療所がなく高齢の方が多いこの地域に診療所が開設され、いつでも気軽に頼ってもらえる「健康よろず相談所」として今後も様々な医療活動に真摯に取り組んで行きたいと思っています



北信クリニック

所長

石原 八州司

Data

職員数 医師 2 名、看護師 3 名、事務 2 名 計 7 名

紹介

このたび、私たちの職場である北信クリニックが、記念すべき 80 周年誌に職場紹介を寄稿できることを大変嬉しく思います。北信クリニックは、今年の 7 月 1 日にオープンしたばかりの新しい北信総合病院付属の新しい病院です。

1 日の受診者数は、皮膚科と小児科を併せて 90 人前後です。医師 2 名、看護師 3 名、事務 2 名、看護助手 1 名という少人数体制ではありますが、その分、スタッフ同士が密に連携を取り合い、身近で迅速な医療サービスの提供を目指し、忙しい毎日を送っています。待ち時間等の課題は、まだまだありますが、改善しながら新しいクリニックとして、地域に根差した医療機関となるべく、スタッフ一同、全力を尽くしたいと思います。これからも、地域住民のため、そして、患者さんの笑顔のため、より良い医療を提供できるように一丸となって頑張ります。皆様の変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。